

所属・資格 心理学科・准教授

申請者氏名 望月 正哉

研究課題		身体基盤性を考慮した日本語概念の処理特性に関する検討 (II)
報告の概要	研究目的 および 研究概要	概念に対する意味処理では、カテゴリ関連性といった言語学的統計量が影響を与えるだけでなく、身体的基盤に関連をもつような心像性や身体対象相互関連度なども影響を与える。平成 31 年度の研究では、動詞句刺激に対して動詞単独への処理を行わせる場合と、動詞句全体に対して処理を行わせる場合を比較することで、身体動作に関する評価が、理解に関する処理に常に影響するのか、課題選択的に影響するのかを検討する。また、収集した動詞評価のデータに対して状況的概念化の枠組み (Barsalou et al., 2018) の考えを援用し、外的状況要素と内的状況要素という観点から分類することで、実験データでみられる効果の生起メカニズムを検討する。
	研究の結果	研究概要に基づき 2 つの実験を実施した。第 1 の実験では、容認可能な動詞句と容認不可能な動詞句を提示し、参加者に動詞単独の処理をさせた。その結果、動詞の身体関連度はどちらの動詞句でもほぼ同等の効果が得られた。第 2 の実験では、同じ動詞句に対し、動詞句全体の処理を実施させた。その結果、容認可能な動詞句のみで身体関連度の効果がみられた。この結果は身体関連度がすべての言語処理に影響するのではなく、意味処理段階において課題志向的に影響することを示す。
	研究の考察・反省	実施した研究については、概ね予測した結果が得られた。一方で、予定していた動詞の分類研究は、データ数の不足という指摘もあり、十分に実施できなかった。本テーマの継続的实施のためには、動詞だけでなく、様々な品詞に対する評価データの収集も必要であることが明らかになった。今後の研究では、評価データの収集を行い、心理変数評価に関するコーパスの作成もすること目標となる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 日本認知心理学会第 17 回大会 日本語動詞のもつ身体関連性の評価(1)—評定調査— 日本語動詞のもつ身体関連性の評価(2)—実験的検討— 令和元年 5 月 26 日/京都テルサ</p> <p>日本心理学会第 83 回大会 文章の変化検出における人称代名詞の効果 令和元年 9 月 11 日/立命館大学</p> <p>※ 現在論文投稿を 1 件行っている (査読中) ほか、次年度には現時点で海外学会発表を 1 件予定している。</p>	